

# 女性教職員活躍推進だより

第7号 令和5年7月12日 教育庁職員課

★★ 女性管理職ロールモデル紹介 ★★

福島市立森合小学校長

渡邊 かほる さん

職員課主幹兼副課長高橋敏幸が話を伺いました！！

Q:これまでの経歴を教えてください。

三春町立三春小学校で新採用となり、5年間勤務しました。東和町立木幡第一小学校へ異動して4年間勤務し、後半2年間は教務主任を経験しました。その後は、福島市立福島第三小学校で6年間勤務し、学年主任や研修主任も務めました。

教頭に昇任してからは、川俣町立小島小学校、東和町立木幡第二小学校、福島市立月輪小学校でそれぞれ2年間勤務しました。小島小学校と木幡第二小学校では閉校に携わり、学校が地域の中でいかに大切な存在であるかを学びました。また、月輪小学校では東日本大震災を経験しました。

福島市教育委員会教育実践センターで、指導主事として4年間研修計画の立案など、教育行政にも関わりました。校長としては、東日本大震災に伴う原子力災害から避難した富岡町立富岡第二小学校の児童、保護者、先生方とともに、三春校でゼロから学校づくりを行いました。その後は、福島市立庭塚小学校で3年間勤務し、現任校は3年目となります。

Q:管理職のロールモデルはいらっしゃいましたか？

教頭昇任考査の受験をすすめてくださった校長先生は、勉強熱心であらゆる情報に精通しているばかりではなく、確固たる信念を持ち、校長としての責任感が強い方でした。

また、ドキュメンタリー映画「みんなの学校」の舞台となった、大阪市立大空小学校初代校長木村泰子先生は、学校を地域に開き、教職員と子ども達とともに地域の人々の協力を得て学校運営にあたるほか、特別な支援を必要とされる子どもも同じ教室でともに学び、育ち合う教育を具現化した方でした。木村先生の研修会等にも参加し、参考にしています。



Q:教頭時代、ワーク・ライフ・バランスのために工夫したことはありますか？

とにかく学校が楽しく、自分で納得するまで仕事に打ち込んでいました。今は反省しており、多忙化解消に本気で取り組んでいます。校長からのトップダウンにならないよう、先生方に様々な取組を考えてもらっています。保護者の方々にもしっかりと説明することで、理解いただいています。

### Q:教頭のやりがいは？

教頭は、管理職の立場で学校づくりに参画できます。校長の意を汲みながら、保護者、地域の方々とともに学校づくりに携われることが何よりのやりがいです。



### Q:逆に大変だったことは？

教頭は、職員室の担任であり、全ての児童の担任でもあります。その都度コミュニケーションを図る必要があります。責任もある立場ですので、大変なことも多々ありました。

### Q:校長としてのやりがいは？

教員は、子どもたちを見守る風のような存在となり、地域が主体となる学校づくりが大切です。そのような学校であれば、困ったことがあったとしても、目の前の子どもたちが必ず答えを教えてください。教職員と保護者・地域の方々が、互いを評価したり、されたりするものではありません。子どもたちのために、ともに何ができるか、皆さんと対等に語り合いながら一緒に学校づくりを行うことが何より楽しいです。

### Q:最後に、女性教職員の皆さんにひとこと。

学校づくりのためには、様々な視点が必ず必要であり、特に女性の視点は重要です。女性の教職員の割合からすると、女性管理職はまだまだ少ない状況です。男女が張り合う必要はありませんが、女性のしなやかな感覚を持った管理職が増えることで、教育界を変えることができると思います。

渡邊かほるさん、

貴重なお話、大変ありがとうございました！！

次回の女性教職員活躍推進だよりの発行は、  
年明け1月下旬頃を予定しています。

今後も、福島県で働く女性教職員の活躍を伝えて  
いきたいと思えます。

よろしくお願いします。



### ～女性教職員活躍推進だよりの発行に当たって～

福島県教育委員会は、女性が職場においてその力を発揮できるよう、「女性教職員活躍推進プラン」を策定し、教職員のニーズに即した女性活躍のための対策を計画的に推進します。また、男女共同参画の実現に向けて、人事の公平性・公正性を確保しつつ、女性教職員の管理職への登用に努めることで、令和7年度までに、女性管理職の割合を教頭・副校長で15%、校長で13%とすることを目標としています。